

# 茨城県ひたちなか市立佐野小学校（学校長 寺門 常康）

実施日	平成19年10月25日（木）	時 間	午前10時30分～午後12時10分
実施場所	体育館，特別教室	対象/人数	6年生 176名
担当教諭	石田 尋美	ファシリテーター	-
講師	カンギリ（ケニヤ） 王（中国）以上、JICA筑波研修員		

## 活動内容

中国・ケニヤの発表と質問グループ、コミュニケーショングループで分かれて活動

## 児童の感想

・私は中国の発表グループでした。最初二人を見たとき、うまく笑顔で接することができるか、とても不安でした。私自身笑顔で接しているかな？でも、いっしょに給食を食べたり、活動したりしているうちに、慣れてきて最後にはみんな笑顔で別れることができたのでよかったなと思いました。（I・N）

・言葉は分からなくても、私達の質問を熱心に聞いてくれてとてもうれしく思いました。通訳の武雄さんが答えを聞いてくれているとき、私も思わず一生懸命に二人の話を聞いていました。内容については、通訳してもらわないと解らないけれど、気持ちは通じたような感じがしてうれしかったです。（I・Y）

## 先生の感想

・来て頂いた方は学校関係者ではなく、つくばの研究者であるということで、少し不安があった。しかし、二人とも子どもたちとの交流を楽しんでくださったようだった。子ども達は手探りの中にも、相手の反応に合わせて、相手の気持ちを察しながら行動するという様子が見られ、コミュニケーション能力を身に付けるという目的に近づいたような気がした。

・また、共に体を動かすことを通して、親しみが増してより楽しく交流会をすすめることができた。カンギリさんの縄跳びの上手さに驚いたり、ワンさんのやさしく一生懸命に答えてくださる様子に、感激したりしていた。

## 成果と課題

・今回は初めてJICAつくばの協力をいただくこととなった。担当の方が大変親切に、好意的に対応してくださり、とてもありがたかった。当初の予定では数名のグループで来ていただける予定であったが、当日は二人になってしまったことと、日

本語が通じず通訳の方もお一人ということで多少の不安があった。子どもたちにこのことを伝え活動を工夫するよう話したところ、劇を取り入れるとか、実物を提示するとか、いろいろなアイデアがうまれていった。目的の一つにより良いコミュニケーションをとるための手段についても考えてみようということも盛り込まれていたもので、コミュニケーションの手段は言葉だけではないことを学び、結果的に良い交流会ができた。

・今後の課題としては、一つに人数の確保がある。5クラス176人の児童に対して、二人のゲストでは対応が大変であった。活動目的についても事前にもっと詳しく打ち合わせをして、できるだけ目的に合った地域の方々に来ていただくよう努力する必要がある。

